

精密工学会賞 第5回 (2009年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 増沢 隆久 氏

増沢隆久氏は放電加工の加工現象の解明や放電回路理論の確立に大きく貢献し、日本の放電加工技術を世界の最高水準に到らせた功績者である。放電加工が微細加工に適していることに早くから注目し、微細加工の草分けの一人となった。特に、数ミクロンの軸加工が行えるマイクロ放電研削法(WEDG法)を開発し、WEDG法により工具電極を機上成形後、極性の反転により芯ぶれを抑えて精度よく穴加工できる微細放電加工機を開発した。この加工機は同氏が提唱する工具の機上成形の原理に基づいており、工具を放電加工後、放電加工はもちろん、切削、超音波加工、電解加工、打抜き、電鑄、ラッピング、組立、形状測定などを同じ加工機上で行うことに成功している。

この功績により科学技術功労者として文部科学大臣賞を受賞しており、精密工学会の蓮沼記念賞をはじめ、多くの学協会からの受賞がある。電気加工学会会長、精密工学会理事、型技術協会理事などを歴任し、国際的にも功績が高く評価され、海外の多くの大学の客員教授や国際生産工学アカデミー(GIRP)の部門長を務めている。

東京大学定年退職後は、微細加工技術コンサルティングを行い、技術の伝承と指導を目的としてハンドドリルのように微細穴が手軽に加工できる放電加工機を開発し、国内外に広く普及させている。

以上のように、微細加工分野に対する工学的・工業的な貢献はきわめて大きい。

1966年 東京大学工学部精密機械工学科卒業

1971年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了

同年 同大学生産技術研究所講師

1985年 同教授

2006年 東京大学名誉教授

同年 増沢マイクロ加工技術コンサルティング設立

精密工学会フェロー、工学博士